

レースっていいよね

- 第6回 - 「実はつらいんす」の巻

先日、ヤボ用で約1年ぶりに実家に帰りました。その時に真っ先に顔を合わせたのは親族ではなく友人のM田。まあ誰も知らないと思いますが、高校時代からの付き合いでして、私の最も心を許せる奴なんです。彼は建築士を志す身で、会う度にいろんな面白い話を聞かしてもらってます。(バカ話がほとんどなんすけど…)「お笑い」で言えば奴がツッコミ、私がボケ。「SM」なら彼がS、私がM。…!? それはともかく、M田はとても活動的でスノボにインラインスケート、などなど多趣味。で、会う度に冗談混じりに私に言うんです。

「レース以外に何かアンの?」とか、「同年じゃない!」「老けてる!!」とか。

普段人一倍プライドの高い私の事、もしほかの人間に同じ事を言われてたら完璧ケンカ。でも、彼が言う不思議と腹が立たないんです。そういう仲間もあるモンです。正直言って、素直に認めます。そう、私にはレースしかない。例えば一般の若者達のように冬はゲレンデ、夏には海で楽しみ、居酒屋ではしゃぎ、カラオケでヒットチャートを歌う事も出来ない。っていうか、そういう場でどうすれば楽しめるかが分からない。「牛タンゲーム」「王様ゲーム」、いまだによく分からない。日本の歌聴かないから歌えない。暴露します、「スピード」と「マックス」の違い最近知りました。……。しょうがないじゃあないか! レースに全てを捧げちゃったのだから。7~8年の昔、「淀川 長治」氏の生い立ちをTVでやってまして、その中でこんなクダリがありました。

「映画に自分の人生を捧げる。そのために他の幸せは捨てる」(確かこんなだった)

カッコイじゃないか! その時に私もいつかこう言いきれようになろう、そう誓ったのです。そして最もそれを意識したのはイギリスで働いた時でした。いきなり若造が見知らぬ国から「雇ってくれ」と来たところで普通無理な話。でもそれを承知の上で履歴書を片手に工場に行き、しかもその時いきなり過ぎて誰も居らず、事務員さんに連絡先を告げるのみに留まり、「ああ、無理だな」と諦め半分で通りがかった教会。普段神なんて信じてないのに、まさに神頼みのつもりでそっと中に入り、誰もいない礼拝堂で祈りました。といっても祈り方など知らないからとにかくブツブツと願いを言っただけなのですが… 淀川氏をマネて、「俺にはレースしかない、恋人も結婚も、およそ一般の幸せは捨てる。だからこのレースの世界で好きな事をやらせて欲しい。その第一歩にまずイギリスで働かせてくれ」…と。どうやらその願いは受理されたらしく、その日の夕刻に先方から電話があり使ってもらえる事に。それ以来私はどういう訳か廻りの人々に恵まれ、願い通りに自分のやりたい事をまさにやってるわけです。

そしてM田の言葉。…きついです。別に私だっていろんな遊びやってみたい。恋人も欲しい。でもね、そりゃ無理よ、何しろ神様の後ろ盾があるのだから。それに実際、時間も金も無い状態でしかも少しの金もそのほとんどが工具や書籍に消えていくのだから何かを始めるなんて現実的に不可能さ。そしてロマンチストでナルシストな私がヒトを愛するなんてきつと出来ない。

「好きな事で食っていく」…聞こえは良いけど、捨てるものも多い。M田は「それは羨ましい事なんだぞ」と言う。実際、自分でも多分そうだと思う。でも、つらいこともあるんすよ。ああ、最近弱ってるなあ。色々あってね。

きつと私に接してる人間の多くは私が「自信家」だと思っているでしょう。でもね、本当は自信は無いけど他人にカッコよく見られたいだけなんです。そして弱みを見せたくない。仕事の面においては特に。素直な私を知るのは今のところ数限られたヒトのみ。思いつくのは三人?...M田氏とH谷川氏とN峰氏。最近めっきりへこんでまして、ちょっとボヤいてみた。たまにはこんな事もあるよね。誰かココロの優しいヒト! こんな私を励まして欲しいなり。。。